



泉中学校 学校だより

No. 9

令和5年2月28日

発行：北杜市立泉中学校

校長 石川 博之

「より良い学校づくりのために（保護者アンケート）」の集計結果について

過日は、標記のアンケートにつきましてご回答ありがとうございました。集計結果が出ましたので報告させていただきます。裏面をご覧ください。

学校では、この結果やいただいたご意見を今後や新年度の教育計画の参考にするとともに、引き続きより良い学校づくりに努力していきたいと思っております。ご家庭でも、参考にいただき家庭生活の一層の充実にお役立てください。

集計結果からみえたこと

*考察にあたり、評価点5「そう思う」と4「どちらかと言えばそう思う」の合計を肯定的、2「どちらかと言えばそう思わない」や1「思わない」の合計を不安に感じている回答ととらえました。

◎学校生活について（項目1, 2, 6, 9参照）

保護者の88%は、生徒が学校生活に楽しさを感じていると肯定的に回答しており、77%が行事や生徒会活動に積極的に参加していると感じています。また、91%の保護者は、生徒が挨拶をしていると回答しており、89%の保護者が、生徒が安全に生活できる学習環境と感じています。これらのことから、多くの保護者は、子どもたちが安全安心な学習環境の中で、充実した学校生活を過ごしていると捉えていると考えられます。一方、保護者の12%は、子どもの様子から学校生活が「楽しくない」「どちらとも言えない」と感じており、喫緊の課題と言えます。

これまで以上に個々の生徒に寄り添った指導を探っていくよう努め、生徒一人一人が心身ともに充実した学校生活を送ることができるよう、魅力ある学校づくりを推進してまいります。

◎学習面について（項目7, 8参照）

項目7「わかりやすい授業づくり」については、76%が肯定的に捉えていますが、「どちらとも言えない」としている割合が21%あり、不安を感じている保護者もいることがわかります。今後も授業の進め方や個別指導等学習について工夫を重ね、学力の向上を図るとともに、満足感や達成感を生徒たちが感じることができるよう全職員で取り組んでまいります。

項目8「進路学習」について、肯定的にとらえている保護者が66%でした。将来の進路や職業について指導するキャリア教育のさらなる充実を学校は図る必要があると考えます。コロナ禍で体験的な学習が実施しにくい状況ですが、学級活動や総合的な学習の時間等で、「これから先の自分のことを考える」機会を今後も継続的につくり、先を見据えた進路指導ができるよう、努めてまいります。

◎家庭学習・家庭生活について（項目3, 4, 5, 13参照）

項目3「家庭学習」については、15%の保護者が不安を感じており、喫緊の課題となっています。授業の振り返りとして、学習内容の定着を図るためにも家庭学習は重要であると考えています。「復習ノート」を活用した取組を推進していますが、さらに家庭学習の内容の充実や生徒の自主的な取組ができるように各教科担任や学級担任等が指導し、今後も取り組んでいきますので、ご家庭でも引き続きご支援をお願いいたします。

項目5「時間や約束事を守る」、項目13「携帯電話の使い方の約束事」に関しては、「どちらとも言えない」という回答が多く見られ、具体的な約束事の再確認が必要になっています。項目4の「学校での出来事等の会話」を大切に、情報モラル教育の推進、家庭内のコミュニケーションの重要性について、保護者の皆様だけではなく、生徒にも継続的に呼びかけていきたいと思っております。

◎生徒の健康面について（項目14参照）

コロナ禍の影響で、家庭内で過ごす時間が多かったことと思いますが、項目14「早寝・早起き・朝ご飯」を肯定的にとらえている数値は87%と高く、大泉町の小学校からの継続的な取組が保護者の意識の高さとなっています。学校では、今後も栄養指導や体力づくりも含め、子どもたちが健やかに成長できるように継続的に取り組んでまいります。ご家庭でも生徒の健康面（食事や睡眠等）について引き続きご指導をお願いいたします。

◎保護者と教職員の連携・協働の推進について（項目10, 11, 12参照）

項目10「相談しやすい教職員」について、肯定的と捉える割合が71%であり、項目12「学校情報」についても91%であったことから、今年度の教育活動について、保護者のご理解、ご支援を得ながら効果的に実施できた一端と捉え、大変嬉しく思います。学校と家庭が「良きパートナー」として、今後も生徒の個性や保護者のご意見を大切にしながら、関係諸機関との連携を推進し、関係者が協働して子どもたちの成長を支えていけるように地域に開かれた学校づくりを目指してまいります。

☆私たち教職員は、いただいた回答を真摯に受け止め、今後も保護者や地域の方々との連携を図りながら、一人一人の生徒に寄り添う気持ちを大事にし、生徒理解の充実にも努めてまいります。